

令和5年豊能町議会 第1回
スマートシティ特別委員会

会 議 録

令和5年6月12日（月）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第1回
スマートシティ特別委員会

年 月 日 令和5年6月12日（月）

場 所 豊能町役場 大会議室

出席委員 5名

秋元美智子 寺脇 直子 池田 忠史
永谷 幸弘 永並 啓

欠席委員 1名 川上 勲

委員外出席 管野英美子（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
政策監兼住民部長	大西 隆樹	総 務 部 長	入江 太志
総 務 部 理 事	松本真由美	保健福祉部長	小森 進
都市建設部長	坂田 朗夫	都市建設部理事	淨住 修
まちづくり創造課長	田中 久志	都市計画課長	田中 克生

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 平田 旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 未入金である令和4年度企業版ふるさと寄附金の経緯について
2. 令和5年度以降のスマートシティ事業について
3. その他

午後1時00分 開会

○委員長（秋元美智子君）

午前中の交通特別委員会からそして今のスマートシティ特別委員会とお時間いただきましてありがとうございます。

このスマートシティ特別委員会は3月27日ですけれども、設置されまして、本日が第1回目でございます。

ちょっと残念なことに川上委員のほうはお休みなんですけれども、委員長に私が、そして、副委員長に寺脇委員が選任されたので、よろしくお願いいいたします。

では改めまして、ただいまの出席委員は5名であります。

定足数に達しておりますので、第1回スマートシティ特別委員会を開催いたします。

よろしくお願いいいたします。

座らせていただきます。

委員会の開会に当たりまして、町長から御挨拶をお願いいいたします。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

皆さんこんにちは。

本日は、お忙しい中御参集をいただきまして誠にありがとうございます。

本日はですね、第1回スマートシティ特別委員会ということでございます。

いろいろと前向きな議論ができたと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。

まずですね、私のほうから冒頭にですね昨年来、スマートシティの事業展開してまいりまして、特に、財政につきましてですね、御心配をおかけいたしましたこと、町として御心配をおかけいたしましたことをこの場をおかりいたしまして、改めておわびを申し上げます。

大変申し訳ございません。

引き続き御議論いただきますようによろしくお願いい申し上げまして、簡単ではございますが、冒頭、開会の御挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ありがとうございます。

なお理事者皆様は2時から、用事があるということでちょっとその間休憩とらせていただきますので、また、もし町長と副町長がほかの理事者の方々で進められるものでしたら進めていきたい。そのときに判断させていただきたいと思っておりますので、午後2時から二人は、ちょっとの間退席されることで、前もって御了解お願いいいたします。

では、本日の会議を開きます。

本日の協議事項は御手元に配付のとおりでございます。

1番最初に未入金である令和4年度の企業版ふるさと納税の経緯について、それから2点目に令和5年度以降のスマートシティの事業について、本来でしたらこちらの2番のほうを、この特別委員会設置の大きな目的だったんですけれども、先に1番のほうの未入金であります企業版ふるさと納税の経緯についてを、先に進めさせていただきたいものですので、このような順番にさせていただきます。

ではこの1番の経緯についてですね、御説明いただきたいと思いますのですが、その前に、前町長の企業版ふるさと納税が入らなかったときの責任の発言、私が責任ありますと明言されましたけれども、に対して行政側は前町長に対して文書で回答を求めていること、してらっしゃいますね。

一応ある程度御報告いただいておりますけれども、改めてこの場で御報告のほどお願いいしたいんですが。

いいですか、ちょっとお待ちくださいね。

何を申し上げますかっていうと、5年の4月7日付けで、上浦町長のほうから、コンパクトシティパーク事業に係る企業版ふるさと納税について、前町長の塩川町長にお出しになっている、これに対する回答文が来ております。

これに対して、この場を出していただけたらありがたいんですけども、その発言内容ですね。

文章内容、御説明をお願いいたします。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

すいません。先ほど秋元委員長のほうから御要望のございましたコンパクトスマートシティパーク事業に係る企業版ふるさと納税についてということで、塩川前町長がですね責任をとるといった趣旨の発言、あるいは企業側とのやりとり、こうした発言に至る経過その根拠、あるいは全額寄附いただけてないことに対する見解等々について、私どものほうから、2回にわたりました、前塩川町長のほうには文書で御質問させていただいて2回について御回答をいただいております。

この内容につきましては別にここで隠すものでもございませんので、委員長のほうから資料提供ということで要請があったということで、こちらのほうから資料提供をさせていただきたいというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

皆様のほうに、今回の回答文に対して資料を出していただこうと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

お願いします。

これはすぐ用意できますか。

（発言する者あり）

○委員長（秋元美智子君）

入ってます。どこ。

（発言する者あり）

○委員長（秋元美智子君）

失礼しました。

すぐ、いかがです皆さんぱっと読んで何か質問があるようでしたら、質問お受けしたいですけどその前に、行政として、この後どうされるのか先にお伺いしたいと思うんですが、今、2度ほどね取り組んでいただいておりますけども。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

まず1回目の4月7日の日に、我々のほうから、塩川前町長に対して、そこに御覧いただいているような文書を出しました。

それについて、回答を4月19日付けで、経過についていただいております。

ただ、我々としましてはこれで、なかなか中身十分確認とれたのかということ申しますとそういうわけではありませんでして、その間に議会でも、この件取上げられておまして、それが4月24日だったかと思いますが日をまたぎまして改めて27日付で再度確認をさせていただいたという経過がございます。

ただ、塩川町長のほうの御認識この間の経過についてのお考えについてお伺いをさせていただくということで回答いただいたものでございまして、我々この、塩川前町長のですね回答をいただいたものを参考にしながらですね、これからどう対応していくのかというのは、これから検討していきたい、検討半ばというところでございます。

ただ企業側とは何回か交渉しておまして、何回も私いろんな場面で申し上げておりますが、企業側は決して支払わないということで申し上げてるわけじゃなくて、払

う意思是、これまでと同様にお持ちいただいているというような状況の中での交渉を今しているという状況でございます。

○委員長（秋元美智子君）

私は性善説だから、個人として性善説なものですからこのまま交渉していくと、企業のほうからね、支払ってくれるのかなって期待しますけどもただそれじゃちょっとまずいと思いますし、行政側としてはそのような、それもね、期限があると思うんですよね。

やはり交渉してく、1年も2年も3年もかけてやっていったらちょっと、まずいことですし、今後についてはもうちょっと煮詰めて、これが駄目だったらどうするかっていうな形をぜひ考えていただきたいですし、またこういう場合は法的なものもどうかということもちょっとよくわからないので、このあたりのことなどはこれからでしょうか。

御相談なんか顧問弁護士への。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

この件に関しましては、一定我々のほうもどうしていくのかというところで法務相談等々も照会をさせていただいております。

ちょっと掘り下げて申しますと、寄附いただいておりますので、この寄附の約束っているのは贈与の一つに当たるということで、契約行為の一つということで、弁護士のほうからは見解をいただいております。

ただ、それを受けまして我々としてこれからどうしていくのかというところ何をもってどうしていくのかというのはこれからの課題かというふうに思っております。

ただスマートシティのこの事業につきましては、昨年度によろやくそのいろんなところを整備させていただいて、今年度と来年度に KPI で企業側と協力いただきながら

実証していくというところもございまして、そういったところも踏まえながら、これからどう対応していくのかということについては、ちょっと慎重に検討さしていきたいというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい。何かいかがですか。この件。

はい。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

永谷です。

町長のお話ずっと聞いてまして、結果的なというか、最終の塩川町長がまだいらっしゃるときに、この文章でも書いてますけれども、私が責任をとるという、僕は間違いないかというおっしゃったというふうに思ってます。

ほかの議員もそうだと思うんですけども、それで相手とやってたら要するに、こんな感じで、なかなか平行線になるんですけども、私ら議員では、当然この話を聞いてますし、前後のお話を深めてみましても、塩川さんが最後に私が責任をとるというふうにおっしゃってました。これは確実に。

今回ちょっといろんなことで詳しいのはそれ以上は出て来ませんが、当然理事者側の方も席におられて、お一人お一人聞きませんが、前町長がおっしゃったことについてはですね、全て私は責任をとるということは、広い意味がありますけれども、近くはやっぱり金銭的な話も含めて、責任をとるというふうに私は聞きました。

当然理事者側の方もそういうふうにかかれたと思いますけれども、これでお話を進めていってもたぶん平行線になると思います。

しかしながら、ここで言いたいのはまさしくそのとおりのおっしゃったこと自体はね、

私ら議員も理事者側もしっかりその辺を踏まえましてですね、これから話進めていかんとあかんわけなんですけれども、今副町長おっしゃった企業版ふるさと納税ですかね、これにつきましてこれからまたお話が進むという話なんですけれども、これってちょっと基本的なこと聞きたいんですけどもフォーラム協議会ですね CSPFC ですかね、約 70 社入ってるってことで説明されておりますけれども、これは契約、私よくわからないんですけどもこれ契約なんですか。

業務委託みたいな感じになってるんですか。

特にそういうことについて何か仕様書みたいなのがあると思うんですけども、その形が全く私よくわからないんです。

契約をされてやってるのか、契約でもいろいろありますけれどもどういう形態でこれが成り立ってるのかということ、まず素朴な質問なんですけど、再度整理してお聞きしたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この CSPFC との関係も含めてのお答えにさせていただきますと思うんですけども、このスマートシティを進めていくに当たりまして令和 3 年の 8 月に、この CSPFC を設立した訳なんですけども、これは豊能町でのスマートシティを進めていくという中で、その推進体制としまして、公民が連携してやっていこうという中でまず令和 3 年の 8 月に設立して、各企業であったりとか、約 70 社入ってますけども、企業とか町も含めてそういったコンソーシアムをつくった。

令和 4 年度の事業を進めるに当たりましては、町から豊能町がデジ電交付金事業を府のほうから交付事業採択を受けましたの

で、町から CSPFC に対して業務委託という形で契約、業務委託契約を交わしまして、令和 4 年の事業を行ったということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

業務委託ですね。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

業務委託ということはその中には、例えば先ほどのふるさと寄附金ですね、企業版の、これについては何か書かれてるんですか。詳しくね。

○委員長（秋元美智子君）

その中に触れられてますかって。

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この業務委託の中にはこの企業版ふるさと納税の件については書かれておりません。

○委員長（秋元美智子君）

はい。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

それは何かほかに書いてあるところ、何かあるんですかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

この企業版ふるさと寄附につきましては、ほかの寄附も同様なんですけども、まず寄附の申出書ということで、企業から町に対してですね、寄附をしますということで申出書というのをいただいております。

その申出書に基づいて寄附の採納を受けるというようなことになっておりまして、業務委託とは別の手続で踏んでいるものでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

企業からの申入れということなので、はっきり言ってこれから、時間も進んでいきますけれども、下手したら企業がもうできませんという可能性もあるわけですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい。田中まちづくり創造課長。

これからですよ。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

残りの1億3,500万の件につきましてはこれからになりますので、これから粘り強く交渉していくということになります。

○委員長（秋元美智子君）

よろしいですか。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

まず、塩川前町長の回答書を見ると、非常に無責任なんだなあというのがえます。

当時、皆さんが責任をとるって言われた発言はもう塩川前町長も出馬しないことは明らかになってたと思うんですね。

それで、そのときの趣旨が、豊能町としてっていうのであれば、自分はそのポジションにいないのがわかってるにもかかわらず、そういう責任をとるっていうふうに残った人に押しつけてるわけですよ。

周りの人たちが我々が責任を持って交渉していきますならいいんですけど、責任をとるって言ったら塩川町長だけなんです。

それもおられないのがわかってる人だけが言ってるんですね、非常に無責任な人いうことになりますよね。この回答書を見ると、権限がないのに言ってるわけですから。

それで今、業務委託の場合の契約書とかって見せていただくことはできないんですか。それをちょっと見たいなあと思うんですけども。

○委員長（秋元美智子君）

これについていかがですか。

業務委託の契約内容、業務委託の契約内容というのかな、契約書というのかな。

これは、公開っていうのかな。

はい、入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

総務部、入江です。

契約書はございますがちょっと今日日本ここで急に資料請求、これはちょっと想定しておりませんでしたので、若干資料としてお出しするのに、例えば個人的なところとか会社の印影であるとかそういうのは、ちょっとやっぱり処理する必要がございますので、今ちょっとここですぐお出しするのはちょっと時間がかかろうかと思えます。よろしくお願ひします。

○委員長（秋元美智子君）

改めた日付でよろしいですか。

改めて用意していただくという形で。

永並委員。

○委員（永並 啓君）

やはりこれだけね、特殊なケースでこれだけ被害が出て、業務委託なんですよ。

ですから、やはりこういうそのために、これはあとからくっついてきた案件ではあるんですけども、スマートシティの案件の中で未入金というのは非常に重要な問題と議会としても位置づけていますのでぜひともその契約書っていうのは、できるだけあんまり黒塗りのところが多かったらまたどないかってんねんってなりますので、できるだけそのままのものを出示していただきたいというふうに思ってます。

それで先ほど田中課長がおっしゃられた、寄附の申出書、申出書は、これを寄附することがわかったのは、1年前の6月なんですよ。

6月に寄附するというのを行政から議会に出されたんですね。

そしたら、寄附の申出書は、そのときにとられているという理解でよろしいですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

寄附の申出書なんですけども、永並委員がおっしゃってるように令和4年の6月に補正予算を措置させていただいたときに、企業側から寄附の申出書っていうのをとっておけばよかったんですが、そのときにはとっておりませんでして、その後、寄附いただく金額に応じたですね、寄附の申出書っていうのはいただいてまいりました。

なので、今、永並委員お尋ねの、予算を措置したときにはどうだったのかっていうとそれはとってないということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

だから、今先ほどね永谷委員が質問されましたように、寄附の申出書、要はそれが一つの担保それしかないわけですね。

でも、本来であれば、議案として出してくるんだったら、最低限そのタイミングで寄附の申出書ぐらい、それしか今寄附に関してはないわけですね。

もう法的な拘束力、契約書にも載ってない。どこにも載ってない。

それで唯一あるのが寄附の申出書だけね。

そしたら、せめて議案として議会に提示して議決を求めるその段階で、やはり申出書っていうものはいただいおく必要があったのかなと思いますけどいかがですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい。高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

確かに永並委員おっしゃるように、担保として我々にとっておくべきだったと、当時

ですね、そういうふうな思いは持っております。

今となっては、そういうことだったのかなというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

なので今後こういうことは、まず寄附金もらわないうちに寄附金でね予算立てることもあれだし、今だったらまず考えられないケースだけでも、まず注意していただきたいということと、はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

今委員長おっしゃられたように、今後このケースはないです。無理です。

すごいことしたんですよ。

一括業務委託で、ここの中に細かく何か事業を、漠然とした中でやりますっていう議案なんですよ。補助金を獲得するために。

でもそこに我々が一個一個審査、審議したかったけどもしなかったのは、豊能町の負担金がないよ。ゼロだよと。ゼロだからそしたら、いろんなこと挑戦したらいいよっていう人が多かった、ほとんどだと思います。

それが最終的には、いやいや1億3,500万も豊能町の負担あるじゃないかと。

そしたらたぶん、どの事業もできてないですよ。どの事業も議決否決されてますよ。もし個々に出してたらね。

そういった状況なんで本当今後はもうあり得ないような予算のやり方をされてますし、もうねえ、総括質疑で意地悪な質問してますけど、毎回、歳入でこれは大丈夫ですか。大丈夫ですか。国の交付金の確約書みたいなのはあるんですかみたいなことを一々聞かないといけない。

すごいことを塩川前町長はされたということですね。

だからそれを今から積み上げていくっていうことは非常に大変だと思いますけどそ

これは高木副町長がおっしゃられた認識と、基本的には一致はしてるんで、今後も引き続き交渉はしていただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい。管野議長。

○議長（管野英美子君）

管野です。

今の寄附の申出書なんですけれど、議会が騒ぎ出した2月10日、22日、3月2日と3日間あるんですけども、騒ぎ出したから、寄附の申出書をもらったんですか、2月20日付けというのが、1回だけなんですか。

寄附の申出書もらったのは2月20日付けと聞いてるんですけど、そのときにもらったんですか。議会が騒ぎ出してから。

○委員長（秋元美智子君）

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

寄附の申出書をいただきましたのは先ほど御説明差し上げたようにですね、一旦寄附いただく前に申出書いただいております。

なので、一番最初にいただきましたのは12月13日付け、これが5,000万円、月末に12月末に入ってきたということで私聞いておりますので、これが1回申出書がございます。で、その後、先ほど議長おっしゃいましたように2月20日付けで1億4,518万1,000円の寄附の申出書をいただきました。

おそらくこれが議会がいろいろ議論なさってる間に、塩川町長が、相手側と協議されて、お出しいただいたものかというふうに思います。

その後ですね3月31日、これがまた1,000万円入れていただいておりますので、そこで寄附の今度は変更書ってなってます。

これ、1億4,518万1,000円から1,000万円に変更します。寄附をですね。こういう変更書というのをいただいております。

ただ、これ変更いただいたからといって我々がこれで了解しているわけではございませんので、これに対して我々が企業側にこれでいいですよという意思表示もしておりませんので、ただ企業側としてこういう金額に変わったよというだけの文書であるというふうに我々は認識しておりますので、残りの1億3,500何がしの金額については、我々としては引き続き、企業側に寄附を求めていくというスタンスは変わりません。

以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい。ほか。永並委員。

○委員（永並 啓君）

この未入金の状態は、国は知ってるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

少なくとも私が4月以降ですねこの件については大阪府の市町村課のほうに照会をかけさせていただいておりますので大阪府は了解しております。

大阪府がそれを国に対してどういう説明をしているのかというのはちょっと我々ちょっとわかりませんが、少なくとも府のほうにはこの件については御説明して御理解いただいているというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

永並委員。

○委員（永並 啓君）

なぜこれを聞いたかという、何度も答弁されているように、3年間つき合わないといけないと。

それがあからそれはほぼほぼ豊能町の財源でやらないといけないというところがあるからなんですよ。

いやもうそれは決まってるのはわかりますけどここの議会でそれが通ってるのは負担がゼロだったから通ってるんですよ。

それが払ってもらえない以上、3年間もつき合ってもらえませんっていうことを僕は言ってもらいたいです。わかります。

もともとの補助金の内容では当然交付金の内容では3年間やります。実証実験で継続して分析もしていきますんですけど、豊能町の事情はほかの市町村とは、事情が違うわけです。

そこは僕は説明して、何も今年度にしなくても、入金があってからやりましょうかとか、そういう事情があるんで、そこは僕はもっと、国のほうに説明してもらいたい。

慎重に、それぞれの事業を見直した上で必要な部分だけを KPI をとっていきような形をとっていただきたいと思いますがそのお考えはありますか。

○委員長（秋元美智子君）

いかがでしょう。

はい。高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今、永並委員おっしゃってるお話っていうのはよくわかるんですが、ただこの KPI というのが、令和5年度、6年度と2か年やっていかなければ、また国の補助金がどう取扱いがどうこうというところが出てこようかと思います。

ただ我々もふるさと納税が全額入って、それで令和5年度、6年度やっていくんだなということであればこれ議員の皆さんも非常に御理解得やすく、腹に落としていただけるのかなと思いながら、そういう思いを持っております。

今1億3,000何がしかが穴あいてる状況でございますので、そこんところはこういう状態で、我々としても非常に苦慮しているというところは企業側にも当然伝えてお

りますので、引き続き企業とはそういうふうに今、納めてほしいという、お願いっていうんですか、協議はしていく一方で、大阪府のほうにですね市町村課になるかどうかわかりませんが、永並委員おっしゃられてるようなお話については、一度させていただいた上で事業をどう進めていくのかというところは、検討していきたいなというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい。永並委員。

○委員（永並 啓君）

そういうのがもともとの企業、OZ1何かわからないですけど、もともとは国からいろんなお金をもらって事業してましたよね。

豊能町でデジタル田園都市の補助金を獲得するまでは議会なんてほったらかしで、ほとんど説明なく、自分たちのお金でされてましたよね、国から出てるんですよ。だから国から言ってもらいたいです。国からも。

一般質問で町長には、維新の吉村知事からも言ってもらいたいし、これすごいことしてるんですよ。

行政とね、議会の関係を全部潰した。それぐらいのことなんですよ。

たまたま、ほかで国がやってるお金を、それに見合うだけのお金を入れたからいいっていう問題じゃなくて、議案として出された、歳入として上がってきたものが欠損してる、信頼関係全部潰したんですよ。

だからこそ、それをしたのが、政党の所属する人であれば、その一番トップからも言ってもらいたいし、それを管轄する寄附する人が、国からお金をもらってるのであれば、そのことを国にも伝えてほしいし。

そうじゃないと、今度は地域の皆さんのためのデジタルを使った、スマートシティ

ですよね、地域の信頼崩れてるんですよ。

そんな中で、何を進めれるんです。

だからこそ、それはいろんなところに、大阪府の市町村課では僕は弱いと思いますよ、直接国に行ったっていいしね、直接OZ1かそこに払ってきた、総務省から出たんですよ最初に。そこに働きかけてもいいし、いろんなところから支払え支払えって言ってもらわないと。

結局何となくイメージですけど、相手は行政やから、残りのお金も払ってくれるやろうし、また、継続してデジタル、この補助金は3年間やらないかんからまた何らかの形でつき合っていくからそれだけでもええわみたいな感じに思われてるようにしか見えない。

だから僕いろんなところに声、お願いに行ってもらいたい、そういうお願いやったらたぶん議長率先して行きますよ。はい。

そういうとこに国にも行ったらいいし大阪府にも行ったらいいし、と思いますけどそれはいかがですか。

○委員長（秋元美智子君）

よろしいですか。

はい。高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

永並委員の御質問でございますが、大阪府に対しましてはですね、市町村課あるいはスマートシティの担当部局のほうにはこういった豊能町独自の窮状って言うんですか問題という課題というところは、お伝えさせていただいております。で、永並委員おっしゃるように、我々もこれお金入ってこないというところが大きな問題というふうに認識してますんで、これからもあらゆる、使えるチャンネルっていうんですかそういうところは、使わしていただいて、この1億3,500万円を納めていただけるように、これからも頑張っていきたいと思って

おりますので、よろしくお願いたします。

○委員長（秋元美智子君）

これ最初スタートするときから、豊能町には一銭もかからない、なぜなら、国が2分の1、それからふるさと納税2分の1、これは大阪府も理解していたことですか。

今からこうだったああだったって府も何なんだって逆に、豊能町の評判を落とすような話だけど、まして給付金で取ってます予算上げてますからね。

どうなりました出だしから。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

予算措置したときにはですね、これは我々の予算でございましたので、大阪府のほうにこれこういう予算組みましたということで周知しているわけではございません。

で、制度的にはこれ当初は3分の2が国で、3分の1が単費ということでございましてその後TYPE3からTYPE2に変更をさせていただいたときには2分の1、2分の1ということにはなっておりますが、これは国からしましたらいずれもこの国の補助金以外の2分の1は単費という扱いでございますので、そこをどう埋めるかというのはそれぞれの自治体の判断というところになってこようかと思えます。

なので、予算措置したときにはこれは特に府なり国というのは承知してしなかったというふうに理解しております。

○委員長（秋元美智子君）

普通、行政がやるのにね、寄附金で賄えるんだとそう簡単にね、なればこそ慎重にね、取り組むべきところをね、何なんだという思いがありますけど。

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

池田です。

ちょっとこれは言っているのか確認して

いいのかわからないんですけど、6月3日に説明いただいた際には、企業版ふるさと寄附、不足分は賄えるという説明の中で、これ図があるんですけど、この図を見る限り、OZ1単独で寄附してもらおうというイメージではなくて、参加企業さん皆さんが出していただいた上で成立するというイメージの図になってると思うんですよ。

であれば、例えば今ここに参加しておられるほかの企業さんからの寄附の話とかは一切なかったのか、あったのかなかったのかその辺ちょっと一旦伺いしてよろしいですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。聞いていただいている課金のモデルですね、これはビジネスモデルとして、こういうものを構築していきますということでお示ししたものです。

去年度の時点ですでね、それをもう、企業がコンシェルジュを使って、自分のところの内容のものを載せたときに見てもらったイコール課金というイメージなんですけれども、それが去年度構築できておりませんでしたので、できてない間はOZ1ですね、OZ1がこの課金モデルの部分について、企業版ふるさと納税をするというお約束で進んでいったものでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ちょっと待って。

今は令和4年の6月3日の全協の資料の中の質問ですね。そこの何ページになるか、4ページのところの中の一般財団法人コンパクトシティプラットフォーム協議会、ここから、ふるさと納税って、豊能町に入ってくことになってます。

これは各企業じゃなくてOZ1一社という説明でしたね。

はい。池田委員。

○委員（池田忠史君）

あくまでちょっと、このモデルの経費、ここにはちゃんと経費分担等って書いてありますから、事業が実際に動いて、もちろんサービスの利用料等、利用者さんから回収した分も含めてということは理解してましたけども、でも、ここにはちゃんと、CSPFCから、企業版ふるさと納税、括弧仮って書いてありますけど、もらう話になってるってことは、あくまでOZ1が出す出さない、もちろんですけども、その辺、ほかの企業さんとどういう話になってた上で、OZ1が出すことになってたのか。

その辺がちょっと、今の話だとちょっとあまりわからないんですけど、もう少し詳細教えていただいてよろしいですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、再度の御説明になるのかもわかりませんがこの仮の企業版ふるさと納税というのはですね、ビジネスモデルが構築できたときに、コンシェルジュを使って、データ連携をしたときに、それを使ったときに、各業者がですね、課金をする、それを集めてですねこれを入れてくるというモデルなんですけれども、1年目のときにその部分が構築できるということが難しいので、OZ1が企業版ふるさと納税として入れましょうということ去年に当初お話しされたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

ということは図では、各企業から入ってるってなってるけども、1年、間に合わないで、OZ1のほうが、1億4,400かな、を入れますという、一社という形でね。

私の自分のメモには、OZ1一社となるって書いてるんで、その辺ではそういう予

定だったってことですね。

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。そういう御説明したと思っております。

○委員長（秋元美智子君）

OZ1の責任も大きいものがありますが、ほか質問、この件に関して。

はい。永並委員。

○委員（永並 啓君）

何か今の話を聞いてると大阪府も知らなかった予算のときはね、国も当然知らなかったとなると、いやもう、一応あれは塩川前町長の名前で議案として出されているということは、どこでどう話をしていたのか。

まずそこをこれから聞いていかないといけないのかなと。

それで場合によっては、塩川前町長なり、OZ1の方に来ていただいてどういう話をされたのかっていうことを聞いていく必要があるかと思いますがいかがですか。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっとまず行政にそういう考えが、取組の考えがあるかどうかも含めて。

はい。高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今回の補正予算、令和4年の6月のときにですね、ふるさと納税を財源としてこの事業を展開していくということになったわけなんですけど、先ほど申し上げましたように寄附の申出書、そのときにもらっておく、あるいはあらかじめ寄附金をいただいております。ということもしておけばですね、こちらとして担保としてある程度のものであったんですけど、何もなかったというところが、非常に今、何もなかったし何もお金が入ってこなかったというところがちょっとこちらでも、問題であった、あるいは反省している点でございます。

で、どうして企業版ふるさと納税を財源としたのかということなんですけど、私もいろいろ確認をさせていただいておりますが、何らかのその例えば、こういう形で行なうということで寄附の申出書にかわるような、企業側から何か書類が提示されたのかということもそういうわけでもございませんでして、何かその当時の塩川町長と企業側との話合いの何か、議事録なり、打合せ簿みたいのがあるのかってところもないようでしてね、我々もちょっとこれ、そこら辺の話がなかなか整理しづらいというところもあって塩川さんのほうに、どういう経過なんですかっていうことでちょっとお伺いしてるようなところもございます。

ただ、塩川さんのほうからはこれ、ごらんいただいているように、そこんところもちょっと明確にお答えいただけないようなところもございまして、何か永並委員の御質問にお答えするといいますと、何か確認できるものがあるのかということもそういうものはない中でですね、この予算、当時の話合いの中で、こういう形にしていこうかということも決まったように認識しております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

やはりそこら辺ははっきりしておく必要があるのかなと。一応、一応寄附金として議案として上げたんですから、議案になった過程なりは調査していく必要があるのかなという感じはします。

それは今、副町長がわからなければ、当時関わった人にいろいろ聞いたりして、そうしないと、一応議案として出てきたわけですから、ねえ。

一人でできるわけじゃないんで、どういう話でどういうふうに言われたからここへ

載せました、どういう、その流れっていうものは、やはり欠損が出てしまったんで、把握しておく必要があるかなと思うんで、そこはまた委員会のほうでいろいろ議論してどういうふうに進めるかを考えたらいかなと思います。

○委員長（秋元美智子君）

寄附金で上げてますし、そしてOZ1の方も最初ね申出も、かなりの金額上げてますから、十分確かな経緯のわかるものはないと言っても、事実は事実だから、かといってもうこのままね、未収金のままであったら本当にこの豊能町、大変なことになりますので、これに関しましてはやっぱり別途どういう経過でこういうふうになったか、また委員の中で話し合っ、詰めていきたいと思いますがよろしいですか。

経緯、これまでの経緯につきましては。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい、じゃ、ほかございますか。

もう、これにつきましては。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

今副町長聞きましてびっくりしたんですけど、全く財源がわからないままでこれスタートしたんですよね。結局今のお話の中で。

とは言いながら、契約するわけですから契約書もあるわけですから、自主的な現場として理事並びに課長ですね。その金額的なことは全く度外視してスタートしたのか。当然我々は、ふるさと納税にお金が入ってくるから、当然、金額がぴっちり合っ、スタートでやったんですけど、そのときはどんな感じやったんですか。

要するに首長が行けということで一言で全部やってしまったのか。もうそれとっても大事なところなんですけど、現場のほう

もどうかわかりませんが、どんな感じだったんですかね、財源が全くはっきりわかってないままにスタートしたということではないんですかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。その当時の塩川町長からはですね、OZ1とは3月の26日に、包括協定を結んでおります。

この協定を結んだ中でですね、応援するという姿勢で企業版ふるさと納税をしたいということ、塩川町長が聞かれた上ですね、それを2分の1にあてて進めればよいということで私たちは指示を受けております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

ということは、前町長の、要するに指示によって、この案件についてはスタートさせた。

ですから金額的なことは全くノータッチ、ノータッチですよ。これでスタートさせたということではないんです、再度確認します。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

ノータッチというかその話は聞かされた上ですね、進んでいったというものでございます。

で、去年度中の中にですね、こちらも支払いをしているというところもありますので、入れていただきたいという旨のお話は事務としてですね、私たち CSPFC の事務局に向けては何度かお願いをして、入れていただいたという事務処理はそういう形で私たちは進めてきました。

○委員長（秋元美智子君）

次回までその間までには、最初にありました契約書ですね。それと経緯などこちらはどんな手順で調べていくかもう一遍話を煮詰めますが、場合によってはOZ1の方に来ていただく場合もあります。

すると、行政の方には申し訳ないですけど今後塩川町長の責任のとり方ですよね。それに対してもちろんOZ1のほうも含めてですが弁護士と相談もしていただいたりして、もうちょっと話も煮詰めていただきたい。

それなどを含めて次回、御報告いただけたらありがたいんですが、いかがでしょうか。

間に合えば、ちょっと次の日程を決めてませんけども。

はい。高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

法的な取扱いにつきましては、うちの顧問弁護士ともこれから協議させていただくというか引き続き調整させていただいて、何らかの答えが出てまいりましたら、何らかの答えがについてまたこの委員会の場で報告させていただこうかなというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

あと、契約書につきましてはよろしいですか。

入江部長。

なお、名前などを消した上で。

○総務部長（入江太志君）

はい。総務部、入江です。

基本、情報公開に準じたような形になるうかと思いますが、資料は用意させていただきますと思います。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

あとまた、OZ1ほうとの返し等はこち

らでまた煮詰めていきたいと思います。

一応3点で、ほか何か、次回までにはこういうことっていうのがありましたら。

よろしいですね。

（発言する者あり）

○委員長（秋元美智子君）

大阪ね、国へ大阪府に本当に働きかけてほしい。

さっきおっしゃったように永並委員から出てきましたようにね、本当お金が入ってから次の事業っていきたいんですが、ひょっとして、大阪府が知らないってことは国も知らない、何を言いに来たんだってね、そういうふうな豊能町、非常につらい立場にもなりかねないけども、やっぱりそれはそれなりにちょっと、国のほうにも申入れていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

国のほうにはまだ直接働きかけというのはしておりませんでして、府のほうには、この間何度もこういった経過について御説明しております。

また大阪府と調整させいただきまして国のほうの取扱いについては、検討していきたい。できるだけ、国のほうにもこういう我々の窮状というのを承知いただきたいという思いで頑張っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ほかよろしゅうございますか。

ほかございますか何か。

よろしいですかこれ。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい。じゃ次に入りたいと思いますけれども、一応4点だったかな、まとめた上で、次2番目に入りたいと思います。

令和5年度以降のスマートシティ事業に

ついてです。

これ3年間ね、検証するとおっしゃって
たから、一応全部事業が対象になるの
かちょっとわかりませんが、実施予
定の事業内容等についてのいろいろ、
ぜひこれについてというような、こ
れはちょっとやっぱり行政なりのお
考えもあると思いますので、そうい
ったことから、説明していただきたい
と思います。

はい。田中まちづくり創造課長。

よろしく願いいたします。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課、田中です。

ちょっと、今回資料のほうは御用意
させていただいてないんで、まずは
ちょっと基本的な考え方といいます
か、はい。そちらのほう御説明さ
せていただきます。

令和5年度のスマートシティ事業の
進め方につきましても現状での取
組の報告ということにさせていただきます。

まず基本的な考え方としましては、
新たなサービスというのは実施せず
に、令和4年度に実施しましたディ
ジタル田園都市国家構想推進交付金
事業の実施計画におけます、八つの
サービスへのKPIの検証を続けなが
ら、引き続きサービスの継続並びに
自立的運営による事業化について
検討していきたい、というふうに考
えております。

このディジタル交付金事業といいま
すのは令和4年度に交付金をいた
だいて実施したんですけども、この
実施したサービスを、令和6年度ま
での期間、継続して、効果検証を
行わないといけないというルール
といいますか、縛りがございます。

国のほうからもサービスが止まっ
ている状況は駄目ですよということで
、通知等もございますので、引き
続きこのサービス継続については、
行っていくというものでございま
す。

この継承に係る運用経費につきましては、
町費での負担が必要になると、いう
ことではございまして、負担額につ
きましては本町の財政状況を鑑みた
上で、その適正額について、現在
CSPFCと協議調整を行っている
ところでございます。

サービス継承に当たりましては、民
間サービスへの移行ですとか、先
ほどもありましたけどもビジネスモ
デルの部分について検討しまして、
行政負担というものをできる限り
圧縮できる手法で協議調整をして
まいりたいというふうに考えてお
ります。

こちらのスケジュール感なんです
けども午前中の交通特別委員会
でも申し上げましたとおりできる
だけですね、早い時期に、この
スマシ関連予算、補正予算を上
程のほうさせていただきまして、
また議員の皆様から御意見ちょう
だいしながら進めていきたいとい
うふうに考えております。

すいません、現状の報告としま
しては以上となります。よろしく
お願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

てことは詳しい具体的な取組ま
ではまだ入ってない、という認
識でいいですか。

じゃ、議員の皆様にはこれまでの
いろいろね、聞いてきた中で。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

一点お願いしたいのは令和5年
度に、KPIを分析していかない
といけないっていうことでいき
なり予算を上げてくのはやめて
くださいね。

必ずここで話を説明してこの方
向でっていうことを思ってます、
それについてはここでの議会と
の議論を踏まえた上で、それも
参考にして予算化を考えてくだ
さいね。

さっき交通特別委員会で何か7
月ぐらいでいきなり言われてち
ょっと、かなりびっくりはして
るんですけど。

だからそういうのをやめていただきたい。
一つ一つの事業に関して、どうしていく
っていうのを、一度スマートシティのこの
特別委員会の中で、ほかの委員の意見なり
を聞いた上で、今年度、来年度どうしてい
くのかということを考えて予算化をしてく
ださい。

お願いします。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと一点お聞きしたいんですけど、さ
っきね、前年、4年やったやつのサービス
はありますけど、それは継続していく必要
があるという中には前回の報告の中で例え
ば見守りなんかは実績1人だったとか、そ
れと子育てのほうだったかな、会計のあり
ましたね。ゼロですよ。かなりの金額か
けてますね。

あれもやってかなくちゃいけないって
いう理解でいいですか。

いかがですか。

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

そのような理解をしております。

やっていかないといけないという理解を
しております。

○委員長（秋元美智子君）

はいどうぞ、永並委員。

○委員（永並 啓君）

1年目にやったことの分析なり継続して
どうなるかというの2年目、3年目という
ふうに聞いてるんですけど、それだと、1
年目にゼロで実績はほぼ出なかったものは
ねえ。続ける意味ないですよ。

何か今の話だと、幾つかの事業は何か年
度末に3月に、いろいろ変えられてやった
から時間がなくてっていったら、何かもう
その令和4年度の事業がそのまま5年も引
き続いてやって、利用者を増やそうという

ふうにも見えるんですがそれは違いますよ
ね。

令和4年度の事業は、見守りについては
1、会計の勉強についてはゼロというところ
で、その検証ですよ。

○委員長（秋元美智子君）

いかがですか。

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

見守りなり、子育てサービスの件につき
ましては当初予定しておいた実績に達せず
ですね、1であったりゼロであったりとい
うような実績でございました。

このサービス自体は継続して行っていか
ないといけないということがございますの
で、このサービスを継続していく中で例え
ば、見守りに関しましてはまだ残りのタグ
がありますので、そういったところを例え
ばどうして配布していったらいいとかそ
ういうことは、改めて検討する必要がある
と思っておりますし、実績は確かに少なか
ったんですけども、令和5年度引き続いて
ちょっとそういった、実装をですね、やっ
ていきたいというふうに考えています。

○委員長（秋元美智子君）

例えば子育ての就労支援サービスでね、
会計業務サービス、それだけ単純に1,100
万かな、1,110万取ってますけど、この予算
をまた用意するってふうな、そういう単純
な理解でいいですか。

それともこれ確か5名の用意だったから、
1名にするとか、そういうふうな話なのか。

これ何の内訳もちょっと聞いてないんだ
けど、要するにそれをやらなくちゃいけ
ないという理解でいいんですか。

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

このサービス自体は、サービス自体は継続してやらないといけないということなんですけども、ただ同じようなやり方でいいのかもしれない例えば経費をですね、圧縮したやり方がないのかとか、というその手法に関しては、CSPFCと協議していく、その中でなるべくですね、経費のほうも圧縮した形でやっていくと。

ただサービスに関してはとめるということとはできないので、そこには継続するという前提でどのようなやり方が一番いいのかいうところを図っていくというところがございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

基本、ほったらかしですよ、でいいん違うのってなりますよ。

特にPRもしない、何もしない、もうでき上がりました、そこは1年目の費用で、無駄に使ってしまったけど、2年目、3年目は、おいてはいるけども、何もこのままの状態でお金もかけず、何もせず、取りあえずおいておくっていうような形でもいいわけですよ。

それを増やさないといけない増やす努力をしないといけない、お金かけてでも2年目、3年目、右肩上がりにならないといけないということもないですよ。

そういう縛りはないと思いますけど確認させてください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

KPIにつきましては達成目標というところで設定はしておるんですけども、ただですね KPI を達成に向けてどういった取組を行ったかっていうことにつきましては、国の

ほうから、実績なり進捗なりの報告ということは定期的に求められているというところもございますので、この間、要は何もサービスが動いていない状態と見られないような取組はしていかないといけないというふうには考えてます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

取りあえず3年間はそういうふうの実験をします、検証します。

当然国だって全部を続けなさいとは思ってないですよ。当然、3年やった結果やめるっていう事業も当然あるでしょうし続けるっていうのもあるでしょうしそれが1年目で結果が出なかったら、それまでっていう事業も僕は説明することは可能だと思いますよ。

そういった方向でも踏まえた上でね、考えていただけたらと思います。

基本的に僕の思いでは、総括を受けて残すのはバスだけ、と公園はもうでき上がってるから、Wi-Fi を飛ばすだけなんで、というようなイメージを持ってるぐらい、もう何も計画できてない中で進んだから、最終の年度末に3月ぐらいにごちゃごちゃごちゃごちゃごちゃごちゃってね、ようやくスタートしましたみたいな形になってるんで、やっぱもうちょっと、その準備というものが全然足りない中の事業やったなという印象は受けてるんで、これは僕の意見なんですけどそこら辺を今後それぞれの事業について各委員の皆さんの声も聞きながら、こういうふうにしたらっていうのを、話し合っていけたらと思ってます。

○委員長（秋元美智子君）

たぶん、大多数の委員の人は残せば、AI オンデマンドバスぐらいかなという感じだけど、かといってほかはこれ全部やめま

すとはいけませんわね。今の話だと。

じゃあ最初の約束どおり3年間実証実験していくには、今後どのぐらい経費がかかるのかってのもまた心配なことです。

で、なおかつ今度これはさっき言いましたように1,000何百万かけて企業の会計じゃなくてもっと違った、何ていうかな技術の身につけ方というふうなそういうチェンジとかできるのか、安くできるのか、それから見守りのタグなんか1名ですわね。

これをさらに増やしてそこにまた経費がかかってくんじゃないかとか、のもありますしそれからもう一つシステムをつくって構築したもんなら、ここに新たなシステム代はかかりませんよね。2年、3年は。

ですから、その内訳もはっきり出していたきたいんですね。最低。

要するにこの八つの事業の中のうち、もうシステム構築できるものは、それを使ってやるのでこの経費は要りませんか、最低そのぐらいは、別に早々に出せていただけるんじゃないかなと思いますが、いかがですか。

はい、お願いします。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

今運用経費につきましてはそれぞれのサービスごとの運用経費につきましてはですね、今のCSPFCのほうと本当に今協議をしておる最中ではございまして各企業がおりますので、そここのやりとりでありますとか、各企業間調整なんかも含めて、最終的にその八つのサービスを、このような手法で継続した場合に今年度幾らかかるんだということは今示してくださいということですので、今協議をしておるといところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

ほか。はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

令和4年度のデジタル田園事業選択8事業ございました。

そのうちの見守り、子育ての、かなり厳しい評価があるんですけど、これって8事業って、町がしっかりと取り組んで検討したもののなのか。

要するに、協議会からね、セールスで、これどうですかそれを丸々やったのか、まずこの辺についてお聞きします。

○委員長（秋元美智子君）

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

豊能町の場合はですね、ある程度CSPFCの中の役割として豊能町にしっかりとスマートシティサービスを実装していくっていう役割と、あと各自治体への横展開といいますか、そういったものの役割を担っております、ある程度その横展開というのを想定したときに、ある程度のパッケージ化、スマートシティのパッケージ化というところで、この八つのサービスをパッケージにしていろいろ企業のほうから、提案があったと。

それに対して豊能町の実課題に合うのかどうかとか、いうのは毎週1回の定例ミーティングの中でいろいろ議論をさせていただきまして、決めてきたというような経過でございます。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと待ってください。

はい、すいません。

暫時、いきなりでちょっと休憩させていただきます。

よろしくをお願いします。

再開は放送をもって再開したいと思いますので、お願いいたします。

(午後2時00分 休憩)

(午後2時22分 再開)

○委員長 (秋元美智子君)

休憩前に引き続き、会議を開催したいと思っておりますのでお願いいたします。

ほか御意見ございますでしょうか。

はい、寺脇副委員長。

○副委員長 (寺脇直子君)

去年交付金で、令和4年度のこのスマートシティ事業のサービスごとの経費内訳を出してもらってるんですけども、これは、令和4年は、例えば、さっき言ったこの見守りが1人とか、会計が実績ゼロなんですけども、これ、見守りでも、実績額が見守りタグが446万円ですね。全体管理サービスで600万円。

で、実績ゼロの会計の子育てのオンライントレーニングPC60万円、会計業務サービス1,110万円。デジタル教育でもGIGAスクール教師支援1,000万円とか、光風台2丁目公園リノベーションこれは4,215万円。

これは交付金で、4年度はやりましたと。

これを、さっき田中課長は、令和5年度も、継続していかないといけなくて、町の経費になるということもおっしゃってたと思うんですけども、これCSPFCさんともこれから例えば公園なんかでも、ほとんどイノベーションほぼできてる、伐採等、まだ完了してないところあるという御意見も当然あるんですけども、こんだけ交付金で1,000万円とかそれぞれこれ続けるって言っても、町単費でできないですし、ましてや先ほどの話でもあったように、前町長が1億3,500万円、寄附が入るといふ、町持ち出しなしという前提で進めてきた事業でもあるんですけども、この辺の今年度続けていくってその町の経費等を全部、どういうふうにしていくかとかやめるのかとか、その辺の協議は、今後どういう形になっていく

んでしょうか。

○委員長 (秋元美智子君)

スケジュール的なものや、お願いします。

はい、松本総務部理事。

○総務部理事 (松本真由美君)

はい。令和4年度にかかりました費用はイニシャルコストという部分が入っておりましてこれからのKPIですね、目標にしているものを進めていく中にはランニングというものが今年度必要なのかなと思っております。

国のもちろん交付金というのを取れていませんのでそのところは町の単費ですね、お願いしていくことになるのかなと思うんですけども、大きな額というのは、今の財政事情の中で、求めていくということは難しいと思っております、企業とのやりとりの中では縮小という言い方はあまりふさわしくないんですけども、継続はし続けていかなければいけないんですけども、強弱つけてやっていかなければいけない事業とですね、続けて行っているもの、配っていないものとかそのあたりのところも国からもこの間のヒアリング等でも聞かれていますので、そこらあたりはどう進めていくかっていうのは、今調整をしているところでございます。

この大きな金額こんなに金額がということでございますが、もちろん町単費の中でということになってまいりますので、費用化についてはここで一つ一つお示ししていただきながら意見をいただいた上でですね、予算を積み上げていくものかなという理解をしております。

○委員長 (秋元美智子君)

はい。寺脇副委員長。

○副委員長 (寺脇直子君)

当初豊能町の財政状況が非常に厳しいというそれは高齢化とか人口減少もありま

すし、そういう厳しい財政状況の中で、この事業を進めていくってということが当然企業さんからの寄附金が入るという前提で進めてきた経緯がありますのでね、これ正直これ、たぶん企業さんは、自分たちの企業のやりたい実証実験を続けたい、続けていきたいっていう話で、町単費でみたいな話されてくるかもしれませんが、正直これだけの額を町単費は難しいと思いますんでね。

あとそれはそのことについては、当初の寄附いただく予定のものも入って来てない中でね、これ続けていくことを厳しいということ、CSPFCさんにも、うちの財政状況もちゃんと伝えた上で、本当に続けていく必要があるものかどうかというところを、企業さんにも、これ全部継続するのはもう正直、かなり難しいと思うんですよね財政的に。そのあたりのお話を本当に最初に、しっかり企業さんにしていく必要があると思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、おっしゃっていただいているとおりだと思います。

今の状況だと、企業版ふるさと納税が入らないことによって、議会のほうから、御意見いただいていることとか、そういうことは全て伝えております。

もちろん、先ほどから町長も説明しておりますとおり、入れていただきたいというような、継続したことは進めているところでございますので、去年度の事業でするので本来は3月末に入っていないといけないところなんですけれども、今入っていないという部分についても入れていただきたいということはもちろんずっと継続的に言っていきますし、その中でどうしても進めてい

かないといけない事業の部分を整理させていただいてですね、財政の負担がなるべく少なく済むような形で進めていければと考えておりますし、内容については、またお示しさせていただいて御意見賜りたいとこのように思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、寺脇副委員長。

○副委員長（寺脇直子君）

町単費ですることが全部全てこれだけの額を出してそのまますることは正直難しいので、企業さんがもしそれでもされたいということであれば、その企業さんからまた寄附してもらおうとかね。

そういうことをしてまで続けていくというその企業さんが、さらに寄附して下さるんだったら、続けれるとは思いますが、全て町単費でっていうのは、やっぱりかなり厳しいと思いますんでね、その辺の財政事情を、もともとそう寄附が入るという前提で進めてきてる事業でもありますので、ほかの企業さんにもそのところはしっかりと話をした上で、またさらに寄附していただけるのであれば寄附していただきたいということも、お伝えしてもいいと思うんですけども、その辺の財政事情については、最初に、先ほども何回も同じ話で申し訳ないですけど、ちょっと話を企業さんと、あらかじめしてほしいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

これは国の交付金の関係でやらなくちゃいけないね3年間は。大前提だわね。

で、この5月、いやいや8月12日か、予算のいろんな説明いただきましたけども、この中で例えば見守りの見守りタグ機器費、446万6,000円とったけど、こういうのはもう要らないわね。はっきりとそういうことやね。

だから、もうこれは要らないってものは、

早い段階で教えてください。

なおかつ、今度は事業を縮小できるもの。資料の提出の話ですよ。

もう早く早々に出していただきたい。

これは出せますか。

どうも7月までには、国に出さなくちゃいけないのかな、ちょっと今後のスケジュールを教えてください。

国のお約束のスケジュール、まず国の約束締切日。

はい。田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

冒頭の説明でも申し上げましたとおりこの事業を令和4年度やった事業丸々本当にフルスペックでといいますか、全く同じような形でやるということは当然、町の財政状況を考えますと難しいので、そこを今企業のほうとCFPFCと各企業で調整していただいておりますけども、手法の工夫であったりとか例えばですけども、よろず相談週2回やってましたけども、例えばそれを月に何回かにするとか、そういうような形です。ね手法の工夫とか、あと民間サービスへの移行などを今考えていただいております。なるべく金額については圧縮したいというふうに考えてなるべくその町の財政規模に応じた形での部分で圧縮したいと考えてます。で、あとスケジュールということなんですけど、この今、CFPFCとのやりとりをできるだけ早いうちにですね、各サービスごとの先ほど委員長からもありましたけども経費固めまして、またお示しさせていただこうと思っておりますし、国への部分につきましては今年度は交付金を取っているわけではないので、特にその実績っていうことはないんですけども、ただ国のほうは定期的なその進捗管理というところでありまして、今度8月の下旬頃だと思っ

んですけども、今の状況どうなってますかというようところで国のほうからの報告はございますというところの状況です。

○委員長（秋元美智子君）

わかりました。

さっきおっしゃったような手法やらね民間移行やらってね、それはね、企業版ふるさと納税が入ってようと入ってないとやらなくちゃいけないことだわね、ですよ。

ですからそういうことも含めてね、きちっと、ふるさと寄附金のほうをどうするか、もしできるならOZ1と話して、OZ1のほうから各企業に寄附申出て、そういう動きをしてもらおうとか、何かのやっぱり進め方をあわせて考えてください。

ともかく、今回のこちらのスマートシティの5年度に関しましては、早々に早く、大ざっぱでもいいですよ、大体これは切れますとかね、という資料だけでも先出していただけたらありがたいです。

いきなり予算と同時に説明書ってのはちょっとやめていただきたい。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

8事業あって、今見守りはもう今後しなくてもいいというような感じで聞きましたけれども、それとあと、インフラ公園整備ですね、これも光風台中央公園完了というふうに聞いているんです。

これももう二つは、もう事業はしなくていいということではないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この、今の見守りサービスそれからインフラサービスにつきましてもサービスの継続は必要な部分でございます。

先ほどの委員長の御質問とかぶるんです

けども、例えば見守りで 250 個調達したタグを今年度まだ 250 個買うというようなことはもちろんしませんので、250 個の残りの中で、サービスを継続していくという前提でございます。で、インフラにつきましても、新たな公園整備を伴うというよりかは、Wi-Fi の通信費でありますとか、そういった継続費用がかかってくると、いうことでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

それで 8 事業、そういう費用がかかるんですけども、またこれ 5 年度に入ってきて、またふるさと納税寄附金を目当てにするんですけど、これはまた入ってこないところで町単費が出て来ますよね。

そういう背景を、もし入ってこなかったら、国に対してね、町単費ではできませんということは、言えるんですか。言えないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

もともと 2 年、3 年は町単費でやる流れだったのかな。

2 年、3 年はそういう覚悟の上に進めた事業ですよ。

いかがです。

1 年目はわかりますけど。

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

4 年度の事業についてはデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用するというものです。2 年目、3 年目についてはですね、うちの今の状況では町単費でということになっておりますが、去年度デジタル田園都市国家構想の TYPE 2 をとられた方は、さらに TYPE 3 を狙ってそれを原資としてされてるところもございしますが、豊能町の場合は、今回デジ電のお金をさらにとつて

いるというようなことがございませんので、町単費でさせていただきたいというものでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

企業版ふるさと納税についても使わない、全て単費ということですか。

ちょっとその辺、私ちょっとよく理解してないんですけど。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

令和 5 年度と 6 年度の事業の財源なんですけども、ふるさと納税で今入っております金額が 6,000 万円でございます。

これはおそらく一旦基金のほうに積みさせていただくことになろうかと思ひまして、今ずっと御説明するさせていただいておりますが、事業の内容を十分精査させていただいて、これぐらいの金額規模になってますよということで、例えばそれが安ければ、6,000 万円の中でも当然収まってくる、逆に余ってくるということも想定されなくもないんですけども、その事業とそれに見合う費用というところを見ながらですね、永谷委員おっしゃってるその 6,000 万円の財源が出ていくのかっていうのはちょっと今後の検討課題かなというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

6,000 万円はいいんですけど、残りの 1 億 3,000 数百万ほど入ってないんで、コロナ金で令和 4 年度補填してますよね。

これは普通の状態ではないわけです。

これがなかったら、さあ、どうしようという感じなんです。

それを何回も言ってるんですけど、企業

側のほうに、業界のほうにしっかりとお話しして、これから入ってくる予測なんですけど。

そういう状況で、またさらに町単費をですね、高額的な形になってくるのがすごく私嫌なんですけどね。

これは国からの話なので、継続でやっていかんとあかんのんわかってますけれども、たまたま令和4年度はコロナ金でチャラになったと。

6,000万入ってきたから、あと1億3,000万くれるとチャラになってますよね、はっきり言うて。

これって、企業版入ってこないからこうなったわけでたまたまコロナ金があったからチャラになったんですけど。

これはまた、5年度のほうに、単費を使うということがね、すごく抵抗があるんですが言うてもしやあないんですけどね、これから企業版ふるさと納税が入ってくることを期待するしかないんですけど、できるだけ、先ほど聞きましたけども、協議会からの、どういいますかね、この8事業について、こういう事業どうですかという話を持ってこられて、町との協議はやってるんですけど、大分、企業からのお話のほうが強いんじゃないかなという気しております。私自身はね、町に見合ったこの8事業なかなということももうすごく疑問にあって、当然AIオンデマンドバスについては、私は賛成しておりますけれども、それ以外についてはなかなかクエッションな面があったんですけどね。

そういう点でその辺もしっかりと総括していただきながら、単費を使うに当たってはね、やっぱりもっと真剣に真剣言い方悪いですけど、真剣にやられてるんですけれども、しっかりとお願いしたいと思しますので、要望出させていただきます。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

要望だけでいいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

ほか。はい。寺脇副委員長。

○副委員長（寺脇直子君）

先ほどからも出てますけど、今回、例えばタグは要らないとか、これは要る要らないっていうものを、早く企業さんと協議をして、それで、実際に町単費が幾らになるのかっていうのがわかってくると思いますし、それが町単費が難しければ、また寄附してもらおうとか、何かいろんな方法を考えないといけないと思うんですね。

なんで、まずは、この事業を国に報告もしないといけないんですけど、どれを今回はタグは要らないから、この250個の446万円はかかりませんが、そういう、どれがかかってどれがかからないってことを、継続していくに当たって、できるだけ早く、企業さんにも試算してもらって、それで、また議会にも説明してほしいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと確認させてもらいたいんですけど、1年目は国2分の1、で入ってこないけどふるさと企業版で、町の経費はゼロですよ。

あと2年、3年は、町の単費で検証しようと思ってたそういうスタートですかこれ。

で、もしも5年、6年、もしも別に企業版ふるさと納税の寄附が入ってきた場合、それは今未納になってるお金のカバーというふうには私はとらないんですね。

それはそれで企業また応援してくれたと。

その頭の整理をしたいんですが、5年、6年はもともと全部町の単費で進めようと思っていたのかどうか確認しますが、

いかがですか。

はい。松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

今町単費でと私申し上げておりますが実は国の交付金もずっと見ておりました。

今年度当初からずっと見てたんですけども出てきてたのが5月のゴールデンウィーク明けに申請して国から交付金いただいて進めていくというような内容もあったりもしたんですけども、そのタイミングでそのものをもってですね、まだそのときには去年度の御報告とか整理が済んでいなかったその中で、ゴールデンウィーク明けに国からのメニューが出てきてるものを上程していくなんてことは考えられませんでしたので、そういう事情の中で今町単費でさせていただきたいということを申し上げております。

今後ですね、また国の補助金等でですね、メニューがあるというようなことがあればですねそういうものも視野に入れながらですね、もちろん進めていきたいとは思っておりますが、今のところですねこのタイミングで春のが一度終わりましたので、国の補助金で出てきてくるというのが、今は見当たっていないというところで町単費でさせていただきたいというお願いでございます。

○委員長（秋元美智子君）

確認。もともとこのスタートしたときに、企業のほうでしょ、OZ1のほうから、1年目2分の1出しますと。2年目、3年目も出しますっていうことはなかったんですか。それはないですね。

はい、松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。5年度、6年度についてですね企業版ふるさと納税をしていただけるというような話はもちろんなかったですし、話の

中でですね国の補助金を積極的にとれるようであればとっていくっていうような姿勢は私たちのほうにはあったということは伝えていたところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

いや、あくまでもOZ1には入ってくるお金は全部、今の未納金という扱いをさせていただこうと思っております。

はい、ほか質問。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

事業それぞれの事業について、企業と話す前に、まずは町の中で、本当にこの事業が、企業にいろいろアドバイスをもらってやったかもしれないけど、これを続けるべきなのか、どうしたほうがいいのかっていうのをまとめてから、委員会の中で報告してもらいたい。

そうしないと、まず企業と話したって、企業はここの事情知らないのに、やりたいこと言ってくるわけですから、もうそれはもう1年目でもう懲りたはずなんで、ねえ。

そしたらそれを踏まえた上で、ほかの事業について、町の職員の方だけで、まずはどうなのか、この事業本当に意味あったの、やるだけどうだったの。こんだけランニングコストをかけてこれからも続けていくべきっていうのを、踏まえた上で、ここの委員会の中でみんなでもとめた上で豊能町としての考えを企業にぶつけるような形をしないと、企業に持っていったら、またいろいろ言ってくるだけだと思いますよ。

先にまずは早急に町の考え方をまとめてください。

お願いします。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございますでしょうか。

はい、はい議長。

○議長（管野英美子君）

まだ決まってないかもしれませんが見守りタグ残り 249 個と、スマートバンドウェアラブル、あと 100 個はどのように配るんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい。小森保健福祉部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部の小森でございます。

私どものほうはありましたスマートバンドのほうでございます。

ちょっといつか忘れたんですがちょっとお話しさせてもらったと思うんですが、基本的には、事務局でやっていただいています、まちづくり課のほうからもですね、残りの分については、何らかの形で渡すようにということで、これ、国庫補助金の関係も影響してまいりますので、そういうことで我々としては、それをまず皆さんにお配りするということをお配りするということを考えてます。

ただ、お配りするんですけれども、ここはもうお金の要らないような形で、ぜひやりたいなと思ってまして、実は年度越える前にですね直接の企業とも話をさせていただいています、この意向については、今年度についてはお金がかからないような形で、何かしたいということはもう表明をしています。

企業のほうからは、お金のかからない方法もありますのでということで言われてますので、ここはまた先ほどございましたように全体の中でですね、中で調整しながら、お金の要らないような形で、極力進めたいなということで考えてございます。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長どうぞ。

○議長（管野英美子君）

すいません。私のちょっと勘違いかもし

れませんが、スマートバンド残り 100 個ってというのは、買ってないんですかまだ。見守りタグあと 249 あるとおっしゃったけども、100 個は買ってないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いします。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

ウェアラブルにつきましても、見守りタグと同様にあります。在庫といいますか、残り 100 個はございますので、その範囲内で行うということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

この購入した金額ですよ、だから。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

スマートバンドを持って見せびらかしてる人とか、ええやろうとか言って、どうやって配るのかなあというのと、それから、見守りタグも子ども 249 っいたら、全員ではないし、そのあたり、どうやって配りはるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はいどうぞ。

はい。小森保健福祉部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部の小森でございます。

見回りの関係とスマートバンド、考え方はたぶん同じになるかなと思います。

実は昨年度やった中でスマートバンドのお話、それと見守りタグの話、ある程度どうところが良かったの、良かったところもありますし、ちょっと今年度、もし、数も余ってますし余ってる言い方は駄目です、お渡しできてませんので、それを有効に活用するという方法がまたあると思います。

できれば切り口をちょっと変えたような

形でできれば、せっかくお金もかけてやらせていただいている事業になりますので、いい結果が出るような形で、今後内部でこれも調整しまして、検討させていただきます。

以上です。

見守りタグも同様のスキームでいくと思います。はい。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございますか。

いいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

いずれにしても行政の方には申し訳ないけど、どちらかというところを土台に、何が要らん本当にもう必要のない予算で、構築した設備とかあると思いますので、今、タグとか、そういったこれはもう、すぐできているから要りませんと、この事業はこういうふうに変えますというものを全部庁内で検討して方針を立てて、資料としてまとめていただきたい。

間違っても予算と同時に出していただかないようにお願いして、この2番目の事業に関しては終わりたいと思いますけど、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

その他に入りますが、その他で何かございますでしょうか。

いいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい。ないようですので、本日のスマートシティ特別委員会はこれで閉会したいと思います。

これに御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい。異議なしと認めます。

よって本委員会は閉会することに決定いたしました。

ちょっと次回の日程は、まだ別途決めていいですか。今日じゃなくて、どうします。

（「改めて」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

いいですね。

改めて、行政の方々にまたそのときお願いしたいと思いますが、お願いいたします。

ではこれをもって第1回スマートシティ特別委員会を閉会いたします。

どうも御苦勞様でした。

ありがとうございます。

午後2時50分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 スマートシティ特別委員会

委員長